

ご挨拶



独立行政法人環境再生保全機構
理事長

福井光彦

平素は、環境行政及び地球環境基金事業にご協力を賜り、御礼申し上げます。

地球上では、二酸化炭素による温暖化や砂漠化、熱帯林の減少、生物多様性の損失など様々な環境問題が深刻化しています。こうした状況の中、2015年度には2つの大きな動きがありました。

ひとつは、2015年9月の国連総会において、持続可能な開発目標(SDGs)が採択され、経済、社会及び環境の三側面のバランスが取れた統合による持続可能な開発の達成という考え方が明らかにされました。

もうひとつは、2015年11月にパリで開催された気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)において2020年以降2030年に向けた取組の新しい国際枠組であるパリ協定が合意されました。我が国も、2030年度において、2013年度比26.0%減の水準にすると新たな温室効果ガス削減目標を策定し、また、長期的な目標として、2050年までに80%の温室効果ガスの排出削減を目指すこととしています。

こうした「持続可能な開発の達成」や「気候変動への対応」を推進していく上で、「様々な主体の参加と連携」や「長期的な視点」がますます大切となっており、とりわけユース世代の役割りが重要となってきていることは言うまでもありません。

こうした状況をふまえ、昨年度、環境省と独立行政法人環境再生保全機構において「全国ユース環境ネットワーク促進事業」を創設しました。本事業は、ユースに対して、志を同じくする仲間や先輩等との交流や、活動を通じて得た学びを共有するネットワークを形成し、もってユースの能力開発を図ろうとするものです。

また、その事業の一環として、本年2月に環境省、独立行政法人環境再生保全機構及び国連大学サステイナビリティ高等研究所の主催で第1回全国ユース環境活動発表大会を開催いたしました。全国から選りすぐりの環境活動を実践する高校生が、日頃の活動内容を披露しあい、同世代が行う活動から、多くの気づき、学びを得ることが出来ました。

第2回となる今回からは、大学生の環境活動を対象とした、全国大学生環境活動コンテスト(ecocon)との協力も始めることとし、「ユース世代の参加と連携」及び「長期的な視点」の醸成という観点から、ユース世代の環境活動をより積極的に応援していくこととしております。

皆様方におかれましては、本事業の趣旨をご理解いただき、積極的な参加をいただきますよう、お願い申し上げます。